

床屋さんでする話

小野澤繁雄

床屋さんでするといっても、頭をしてもらっているあいだのことだから、切れ切れで、詳しいというはなしではない。体位をかえて、洗髪に入ることもある。

定年退職後にとくにそうなったということでもないが、髪も薄くなっていて、頭をもらうのも、ひと月半に一度くらいになっている。話はそのときどきの花のことからが多い。

男は床屋を変えないという。じぶんももうじき三十年になる。うちの下の子も、米沢から帰省してきて、短い滞在中に、よく髪を切ってもらってきたということがある。つど話をしてくるようだ。

二日前の日、そうあたたかくなかったが、近くの森林公園に花をみにいった。

朝のテレビでみたのは群馬県の太田の芝桜で、太田でもよかったが、芝桜は秩父でみたことがあ

る。近さからも、気になっていたネモフィラが咲いているという森林公園にした。

シーズンごとに足を運ぶが、ことしは梅も桜もみにいかなかった。桜は経過が早すぎた。今、麓では枝垂れが終わって、八重が残っているところ。

ネモフィラだが、丘の片側斜面いっぱい咲いていて、全体が空色、木立がぐれにみえていた個所では沼か何かと見逃してしまう。

こまかい花がびっしりとかたまっているが、見る角度では畦になっているので、土肌がみえている。顔を近づけると、蜂がいる花が多い。蜂はみな夢中のようだ。

こまかい花はきらいではないが、今、みどころというところはとくに、何万、何十万という花数を云っている。それが疲れさせる。

大雑把な話しかしないが、森林公園では、ほかにアイスランドポピー、ルピナスをみた。

久しぶりにいっしょにいった中の子に聞いたところ、よかったのは樹間のところどころで花を咲かせていたヤマツツジだという。

じぶんには高い木のハナミズキもよかったが、花木がいいのかなとおもった。

と、ここまでのすべてが話になった訳ではないが、その間、マスターの孫、男の子の声が切れぎれに聞こえていた。